

ゆっくり散策してみませんか。すてきな道がたくさんあります。

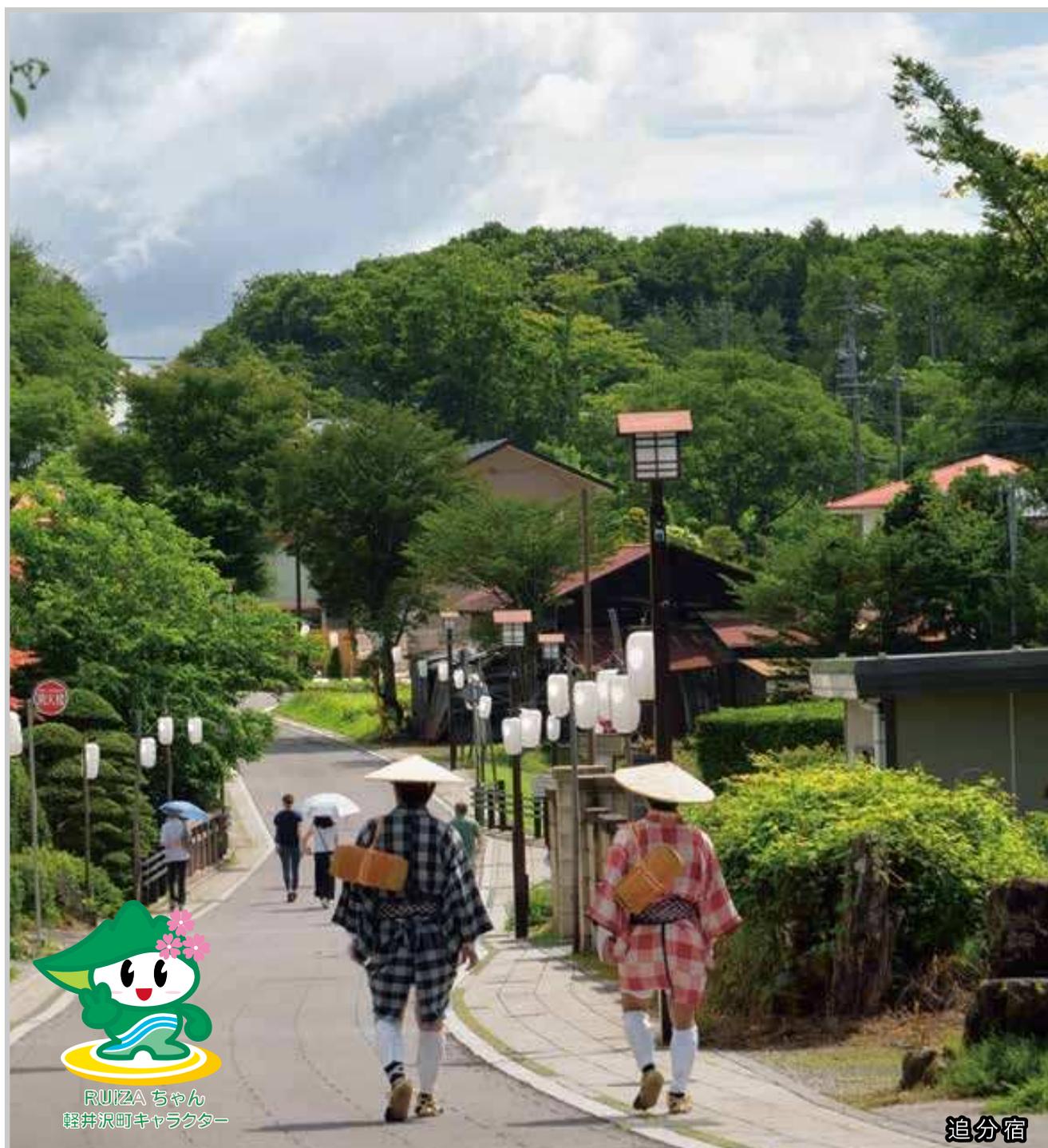
軽井沢

美しい村
KARUIZAWA BEAUTIFUL VILLAGE

歩く 軽井沢

KARUIZAWA

手軽なウォーキングから登山から詳細地図付きガイド 17コース



RUIZAちゃん
軽井沢町キャラクター

一般社団法人 軽井沢観光協会

春

軽井沢へようこそ

美しい自然に恵まれ、標高1000mの高原に広がる軽井沢は明治21年に初めての別荘が建てられて以来、国際的保健休養地として、全国有数のリゾート地として発展してきました。浅間山をはじめとする山岳、湖沼や滝などの自然、落ち着いたたたずまいの別荘地、周辺ののどかな山村など、軽井沢に居を構えた作家や画家たちが愛した風景は今も健在。四季折々に姿を変え、私たちを魅了しています。

標高が高く、夏も涼しい軽井沢だけに春はゆっくりです。東京などの都会より1ヶ月以上も遅く、ゴールデンウィークごろようやく日だまりに野草が花を咲かせはじめます。このころの野山は全体に枯れ木立のようですが、里では木々の芽がほころびはじめており、その中に真っ白な花をいっぱいに着け、軽井沢町の木でもあるコブシが点々と咲いて春の訪れを告げます。天気がい日は暖かく、まだ避暑客はもちろん旅行者も少ない時期なので、静かなウォーキングを楽しむことができます。ただし、山に登るコースには雪が残っており、山に慣れた人向きです。

5月もなかばを過ぎると木

の芽が萌え出し、6月にかけてみずみずしい新緑が広がります。花の種類も多く、残雪をいただいた浅間山の眺めと相まって、軽井沢に住む人たちも“一年でいちばん美しい時期”というほど。ゴールデンウィークと夏休みの狭間の時期ということもあって、旅行者が意外に少ない、穴場の時期でもあります。

里で新緑が広がるころには、山の上でも芽吹きが始まり、残雪も消えて、登山にも適したシーズンとなります。なお、毎年、4月下旬から6月上旬にかけて、軽井沢若葉まつりが開催され、ハイキングイベントなどが行われますので、旅行の計画をたてる前にチェックされるのもよいでしょう。



▲春の雲場池



▲トウゴクミツバツツジは山地の落葉樹林などに見られます



▲若葉まつりのころは新緑がきれい

文字どおり暑さを避け、軽井沢の冷涼な気候にさわやかな夏を過ごす避暑のシーズンです。7月に入ると大学など夏休みに入る学校もあり、人出が多くなってきます。下旬には梅雨が明け、小中学校なども夏休みとなり、避暑客もさらに増えて、軽井沢が最もにぎわいを見せ、活気あふれる時期となります。この時期しか営業しない美術館や資料館、ショップなどもありますので、そうした見どころを回りたい人にもうってつけです。



▲高原ムードが漂うシラカバ林



▲竜返しの滝

夏

夏はお祭りの季節でもあります。7月の下旬、しなの追分馬子唄道中が行われるのを皮切りに、町内各地でお祭りや花火大会が開かれ、夏の風情を楽しめます。

7～8月は、気候が温暖で日が長いので、ビギナーもより安心してハイキングや登山を楽しめます。自然の中を歩く人も一年で最も多いですが、市街地よりずっと人出が少ないので、静かに歩きたいという人にもおすすめです。日中、市街地では汗ばむほど

の陽気の日でも、標高が高い山の上や清流沿いのハイキングなどは暑さ知らず。さわやかな一日を過ごせます。ただし、昼間は気温が高くても、朝夕は冷えこむことも多いので、特に山を歩く人は長袖のシャツなども用意していきましょう。



▲コウスゲ(アサマキスゲ)は山野の草原などに見られます



▲清涼感に包まれる白糸の滝

秋

9月に入ると人出も少なくなり、軽井沢の町も落ち着きを取りもどします。山の上では9月なかばになると木々が色づきはじめ、例年、10月中旬ごろに最盛期を迎えます。カエデ類など真紅に色づく木、カバ類など黄色くなる木など色とりどりの紅葉の中にモミなど常緑の木が点々と混じった山肌の紅葉は、豪華な織物のような美しさ。中腹や市街地周辺に広がるカラマツ林は少し遅く、10月下旬ごろに黄葉します。紅葉のころは秋晴れで空気が澄み、遠くま

で見えることが多いのも、この季節ならではの楽しみです。山を下りてきた紅葉が里で盛りとなるのは10月下旬ごろ。11月に入ると紅葉は盛りを過ぎてしましますが、カラマツの黄葉はまだ見られます。また、晩秋に入り、葉を落とした枝越しに山々と青空を眺めながら歩くのも楽しいものです。9月下旬から11月上旬には、軽井沢紅葉まつりが開催され、春の若葉まつり同様、ハイキングイベントなどに参加したり、観覧したりできます。



▲見晴台から望む朝日



▲旧碓氷峠の見晴台は夕日がきれい



▲カラマツの美しい実も豊富

歴史をたずねて①



▲旧軽井沢の芭蕉句碑

宿場町だった軽井沢

別荘地に象徴される現代の歴史が印象深い軽井沢ですが、町内の各地で縄文土器、古代の住居跡などが発掘されており、碓氷峠の南方にある入山峠は旧東山道の峠と推定されるなどの歴史を秘めています。江戸時代には碓氷峠を越える中山道の宿場町として栄え、旧軽井沢のはずれに建

つ旅館、旅人が別れを惜しんだという二手橋、俳聖・松尾芭蕉の「馬をさへながむる雪のあした哉」の句碑などに当時の軽井沢宿がしのばれます。北国街道と中山道が分岐し、分去れの碑や茶屋が残る追分宿、軽井沢と追分の中間にある沓掛宿(中軽井沢)をあわせ浅間根腰の三宿と呼ばれていました。

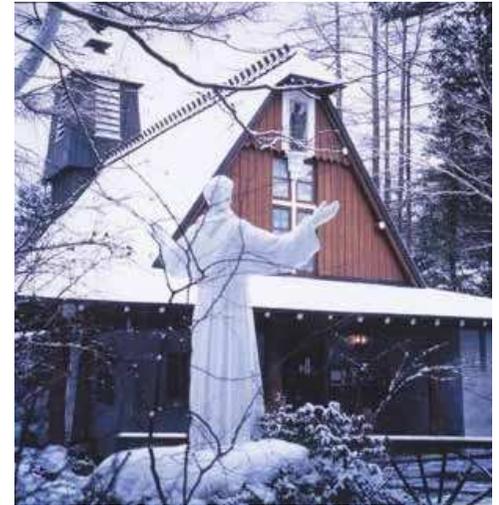
都会では秋たけなわの11月なかばには、すっかり木々の葉が落ち、浅間山の冠雪も見られて、初冬の趣となります。平年で11月末ごろ、里にも初雪が舞います。同じころ軽井沢ウインターフェスティバルがはじまり、2月下旬までイルミネーション、ウインタースポーツの大会などが次々に開かれます。

新年になって、里の雪も根雪になるころは建物や木々が雪化粧したり、霧水を着けたり、ほかの季節にはない表情を見せてくれます。天候は比

較的安定しており、浅間山の銀嶺を眺めたり、雲場池や野鳥の森でバードウォッチングを楽しむのも冬ならではの楽しみです。山のコースは冬山となり一般向きではありませんが、郊外のウォーキングも雪道を歩く場合があります。除雪された市街地も凍結で滑りやすい場合もありますので、事前に状況をお問い合わせいただくか、万全な雪道対策をしてお出かけください。

冬

▼夏はにぎやかな雲場池もひっそり静か



旧軽井沢の聖パウロ教会 ▼

歴史をたずねて②

避暑地として発展をとげる



▲平成8年まで使用していた軽井沢駅舎

最初の別荘が建てられたのは1888年(明治21)のこと。その2年前に旅行で訪れた英国聖公会宣教師アレキサンダー・クロフト・ショーが美しい自然と清澄な気候に感動し、旧軽井沢の大塚山に建築しました。同じ年には鉄道が開通し、ショー師の勧めもあって、宣教師をはじめとする外国人が次々に別荘を建て、増加する避暑客のためにホテルやレストラン、ショップも誕生していきました。また、海外の文化やキリスト教的精神ももたらされ、現代の

軽井沢の文化や風土形成の基礎も築かれました。大正に入ると大手資本による分譲がはじまって別荘地は広がりを見せ、ゴルフ場やテニスコートのスポーツ施設も造られました。第二次大戦後には企業や学校の寮も相次いで建てられるなど、軽井沢はより広く親しまれる避暑地として発展しました。1973年(昭和48)には軽井沢町民憲章が制定され、清らかな環境を守り、かおり高い文化と伝統を育てる町づくりがなされています。

もくじ

No. ガイド	頁
① 新・旧軽井沢一周	8
② 旧軽井沢銀座散策	10
③ 新軽井沢から三笠	11
④ 軽井沢野鳥の森	12
⑤ 中軽井沢から千ヶ滝地区	13
⑥ 信濃追分散策	14
⑦ 風越・塩沢湖周辺	15
⑧ 軽井沢南地区	16
⑨ 旧中山道踏破	17
⑩ 千ヶ滝	18
⑪ 三笠から小瀬、星野	19
⑫ 新軽井沢から離山	20
⑬ 旧碓氷峠遊覧歩道	21
⑭ 峰の茶屋から白糸の滝・竜返し	22
⑮ 峰の茶屋から小浅間山	23
⑯ 旧碓氷峠から鼻曲山	24
⑰ 信濃追分から石尊山	25

軽井沢へようこそ(四季の魅力と歩き方・歴史コラム)…… 2
 軽井沢ガイドマップ …… 6

軽井沢の博物館・資料館・ 美術館・日帰り温泉	26
軽井沢への交通	27
軽井沢周辺散策ガイド	28
御代田・小諸	29
安中・富岡	30
ハイキング登山の注意点、浅間山の噴火警戒レベルについて	31
イベントカレンダー・問い合わせ先一覧	32
駐車場情報	32

[この本の使い方]

凡例

[グレード]	[特徴]
手軽なウォーキング	歴史
長めのウォーキング	文学
手軽なハイキング	美術
本格的な登山	自然

ウォーキングは原則として街の中を歩くコースで、 は歩行時間が30分~2時間くらいまで。旅行の合間などにも手軽に歩けるコースです。 は2~4時間くらいの本格的なコースです。 は山道を歩きますが、登山の知識や技術がなくても歩けるコースで距離も短めです。 は山道を歩くだけでなく距離や標高差があり、本格的な登山技術が必要とされるコースです。



⑬コース⑭コースの三等から小瀬。⑭コースに地蔵発元気づくり支援金を活用し、室内看板を設置し、また、

● = 浅間山ビューポイント

1 新・旧軽井沢一周

軽井沢駅を起点に繁華街や静かな裏通りを一周して高原の街の趣を満喫する



スタートは軽井沢駅。軽井沢駅前と旧軽井沢の間に広がる新軽井沢、四季折々に風情ある雲場池、軽井沢の中心的存在である旧軽井沢、避暑客らに親しまれた散歩道などを巡り軽井沢駅へもどる。

軽井沢駅①から旧軽井沢方面へまっすぐ伸びる軽井沢本通りに入って10分ほど歩き、新道バス停がある東雲交差点を左へ入る。モミの並木道を進み、ラウンドアバウトの交差点の先の道を直線方向に進む。左手の正宗白鳥文学碑②を過ぎて橋を渡ると右に雲場池③が広がる。カエデなどの木立に囲まれて、新緑、紅葉のころはとりわけ美しい。

池に沿って北へ進み、水源の御膳水へ。みことなモミの並木が続く別荘地を抜けると旧軽井沢銀座北側の裏通りに入る。銀座通りに出たら左手の芭蕉句碑④からまた裏通りに入るが、ショー記念礼拝堂などに立ち寄り行くのもよい。

矢ヶ崎川東岸のお気持の道を南下して西岸に渡り、なかむら橋で東岸へもどって万平通りへ出たら、左へ行くと万平ホテル⑤に着く。万平通りを南下し、矢ヶ崎川に沿った、ささやきの小径に入り、さらに南下して国道18号裏通りを軽井沢駅①へ。

アドバイス コースの中間点である旧軽井沢までの前半、逆に後半のみを歩いてもよいし、②旧軽井沢銀座散策コース、③新軽井沢から三笠コースなどと適宜組み合わせるのもよい。



▲アメリカの建築家A・レーモンドが設計、1935年(昭和10)に建てられた聖パウロ教会



▲旧軽井沢銀座の中ほどに建つ軽井沢観光会館。観光案内や展示、有料トイレがある



▲秋を写す



※美術館・記念館のデータはP26参照 ④は避難所



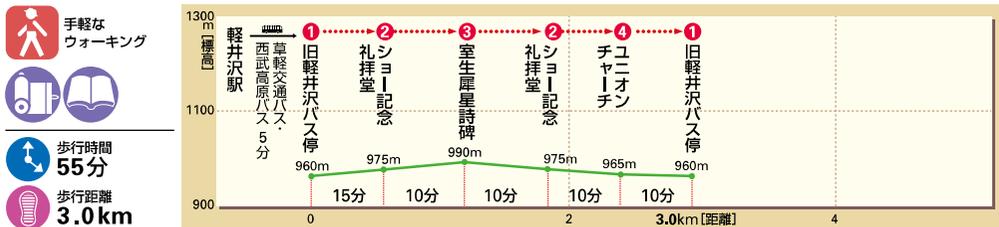
▲矢ヶ崎川に沿う、ささやきの小径



▲軽井沢のホテルの草分け万平ホテル

2 旧軽井沢銀座散策

別荘地・軽井沢の発祥地をメインストリートから裏通りまでじっくり歩く。

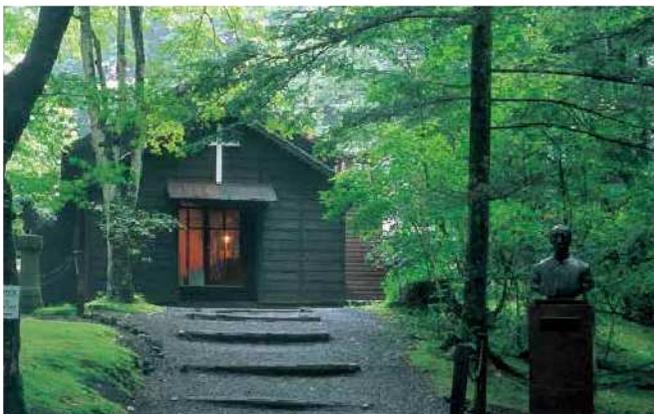


軽井沢の顔である銀座通りを中心に散策する。短いが、別荘地軽井沢の原点であるショー師の史跡や歴史ある建築、文学碑なども訪ねる中身の濃いコース。にぎやかな銀座通りと文学碑付近の静かなたすまいとの対比も趣が深い。

旧軽井沢バス停①から旧軽井沢銀座に入るとショップが並び、通りの中ほどにある西洋館はかつての軽井沢郵便局を模した観光会館で観光案内所やギャラリーなどがある。通りのはずれには旅館があり、往時の面影を伝える。その先、左手の林のショー記念礼拝堂②は明治21年(1888)、別荘第1号を建てた英国聖公会宣教師A・Cショーを記念し、手前にショー師の胸像、右奥に移築、復元された別荘が建つ。

すぐ右手に松尾芭蕉の句碑を見て二手橋に着く。軽井沢が宿場町だったころ、旅人がここで軽井沢の人たちと別れを惜しんだという所である。川に沿って進むと、左下に室生犀星詩碑③がある。銀座通りのつるや旅館前で左へ入り、裏道を通り、ユニオンチャーチ④などを見て旧軽井沢バス停①へもどる。

アドバイス 室生犀星詩碑まで行かず二手橋付近で引き返せば歩行時間30分あまりで、さらに手軽なコースとなる。



▲旧軽井沢銀座のはずれに建つショー記念礼拝堂。右の奥に復元された別荘がある



3 新軽井沢から三笠

みごとなカラマツ並木を抜けて明治・大正のロマン漂う西洋館の旧ホテルへ

※重要文化財旧三笠ホテルは改修工事のため令和7年まで休館予定



▲1904年(明治37)に建てられた旧三笠ホテル 改修工事中 令和7年度開館予定



▲カエデ・カラマツなどの並木が続く三笠通り

軽井沢駅から旧軽井沢への最短ルートである軽井沢本通りをたどり、軽井沢を代表する風景であるカラマツ並木の三笠通りを歩いて旧三笠ホテルをめざす。

軽井沢駅①から北へ向かう軽井沢本通りを道なりに進むと、ショップや食事処が多く、にぎやかになってくる。カエデの並木も美しい。旧軽井沢バス停②がある旧軽ロータリーで、やや左斜めに曲がる広い道を道なりに進むと、両側に緑が広がり、カラマツ並木に入る。中央の分離帯に天を突くカラマツが植えられ、両側はモミヤミズナラの樹林が広がって、うっそうと茂っている。

カラマツ並木が終わり、旧三笠ホテル手前で指導標に従って右へ登ると有島武郎終焉地碑③などが建つ。彼の別荘・浄月庵の跡である。三笠通りにもどり、少し進むと旧三笠ホテルに着く。明治の木造西洋館のホテルとして国の重要文化財

に指定され、内部も公開されている。見学を終えたら三笠バス停④へ。(※令和7年まで休館予定)

アドバイス このコースのハイライトは後半の旧軽井沢～三笠間のカラマツ並木なのでこの部分と②旧軽井沢銀座散策コースなどと組み合わせてもよい。前半は、旧軽井沢～新軽井沢間も歩いて旧軽井沢をたずねるときの経路として利用価値が高い。



▲カラマツ並木が天を突く三笠通り



6 信濃追分散策

旧街道の宿場町に史跡と文学者たちの足跡をたずねて



軽井沢も信濃追分まで来ると古くからの落ちついたたずまいが色濃く、のどかな雰囲気漂う。中山道と北国街道の分岐である分去れも近く、往時をしのばせる遺構も随所に残る。追分はまた文学者たちに好まれた地でもあり、中でも堀辰雄は住居を構え、数々の傑作を執筆した。歴史と文学を訪ねて追分宿をひと回りしてみよう。

信濃追分駅①駅前の道を左へ道なりに進むと、国道18号の下をくぐったところで旧中山道に出会う。左へとり、昇進橋を渡って、左手には堀辰雄の旧居を保存した堀辰雄文学記念館が建つ。右手に見えてくる旧旅館は、堀辰雄や立原道造が滞在した油屋旅館である。このあたりが追分宿の中心部で、すぐ先は本陣があったところ、その先には高札場が復元されている。

堀辰雄の作品にも描かれた石仏がたたずむ泉洞寺②、樹形の茶屋を見て国道18号に出れば、すぐ先が分去れで石碑や石仏がまつられている。この先から石尊山登山口③付近の別荘地を回り、一里塚④や追分宿郷土館、浅間神社をたずねて信濃追分駅①へもどろう。

アドバイス 四季折々に風情があるが、新緑の春から初夏、紅葉の秋、初冬の枯れ木立の時期は特に味わい深い。歩き足りない場合は⑨旧中山道踏破コースを参考に御代田あたりまで旧中山道を歩くのもおすすめ。



▲ 常夜灯などが建つ分去れ。左が中山道、右が北国街道 ▲ 堀辰雄が愛した泉洞寺の石仏

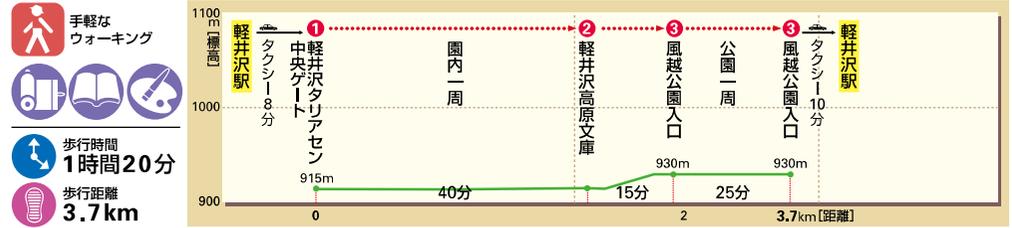


[しなの鉄道☎0267-42-6257 / 千曲バス☎0267-22-2100 HPIについてはP29参照]

☒は避難所

7 風越・塩沢湖周辺

明治期の西洋館や文学者の別荘など軽井沢の文化遺産、美術にふれられる



▲ 軽井沢タリアセンの中にある塩沢湖。浅間山もよく見える



[西武バス☎0267-45-5045 HPIについてはP29参照]

☒は避難所

塩沢湖周辺は、美術館や文学館など文学施設が多く、近くには運動公園もあり、多彩なエリアとなっている。軽井沢タリアセン(有料)は塩沢湖を中心に、遊歩道やイングリッシュローズガーデンなど見どころがたくさんある。

軽井沢タリアセン(有料)中央ゲート①から園内に入ったら、塩沢湖を半時計回りに一周しよう。最初に睡鳩荘[旧朝吹山荘]は昭和60年にW.M.ヴォーリスの設計により建てられ、フランス文学者の朝吹登水子の別荘を移築したもの。深沢紅子・野の花美術館は明治44年(1911)建築の旧軽井沢郵便局を移築。ペイネ美術館は建築家A・レーモンドが昭和初期に建てたアトリエ兼別荘を移築したもので、令和5年(2023)に重要文化財に指定された。最後に軽井沢高原文庫②には文学者らの別荘が移築されている。

風越公園入口③の公園には、自生種を中心とした軽井沢町植物園、通年型カーリング施設の軽井沢アイスパーク、長野オリンピックカーリング会場として使用された軽井沢風越公園アイスアリーナ、1周400mの軽井沢風越公園スケートリンク、温水プールのスカップ軽井沢、風越公園総合体育館などがある。

アドバイス 見どころがたくさんあるので余裕ある行程で歩きたい。中軽井沢駅から徒歩で軽井沢タリアセン中央ゲートまで約1時間(⑧軽井沢南地区コース参照)。

8 軽井沢南地区

浅間山の展望を友に高原野菜の畑が広がる田園地帯を歩くロングコース



▲軽井沢発地市庭ではブランド野菜「軽井沢霧下野菜」等の地物野菜が揃っている。



[しなの鉄道]0267-42-6257 / 西武高原バス0267-45-5045 HPIについてはP29参照 [2]は避難所

9 旧中山道踏破

旧街道をたずねて歩き、軽井沢町を横断する充実のロングコース



江戸時代の五街道に数えられ、東海道と並んで東西を結んだ中山道。軽井沢町内にはその旧街道の道や史跡が比較的良好に残っている。群馬県安中市と軽井沢町の境である旧碓氷峠から西へ進み、御代田町まで歩いてみよう。

旧碓氷峠から遊覧歩道を下って、浅間根腰の三宿に数えられた旧軽井沢の銀座通りを抜けていく。旧軽井沢バス停からしばらくはバス道路である。国道18号に合流してすぐ、旧近衛文麿別荘(市村記念館)から軽井沢町役場の間は国道18号の裏道が旧中山道であると推定されている。

浅間根腰の三宿の杓掛宿をしのび、中軽井沢駅から古宿、借宿などを過ぎ、浅間根腰の三宿の

最後を飾る追分宿で、最もよく宿場の面影が残っている(⑥)信濃追分散策コース参照。

分去れで国道18号と分かれて左へ下る旧道に入れば、御代田駅へ導かれる。御代田駅からは、しなの鉄道で軽井沢駅へもどる。

アドバイス
全行程の踏破にこだわらず一部をほかのコースと組み合わせるにも役立つ。旧碓氷峠への交通などは旧碓氷峠遊覧歩道



▲整備された追分宿 東信州中山道協議会 ホームページ



[草軽交通バス]0267-42-2441 / 西武高原バス0267-45-5045 / 千曲バス0267-22-2100 HPIについてはP29参照 [2]は避難所

10 千ヶ滝

軽井沢で最大の落差を誇る名瀑と苔むした清流をたずねる遊歩道散策



千ヶ滝は垂直の岩盤を勢よく落下し、落差20mは軽井沢で最も大きい。1997年から3年にわたり整備された遊歩道は、せせらぎの道と名づけられ、山地災害の予防と下流域の生活環境の保全に配慮した工法が取り入れられているのも特徴的である。

千ヶ滝温泉入口バス停①から西へ延びる車道を下り、忍ヶ丘バス停から指導票に従って北へ向かう車道に入る。しばらくは一本道の

ゆるやかな登りが続く。カラマツ林が美しいが、歩道がないので車に注意して歩こう。

駐車場②を過ぎると、せせらぎの道に入る。木橋を渡り、水遊び場を見下ろし登っていくと、斜面中腹につけられた道をたどるようになる。沢に下り、流れを渡り返しなが

階段を登り、遊歩道終点に着いたところが千ヶ滝③の直下で滝の

全容がよく見える。帰りは来た道をもどる。なお、同じ道を往復したくないという人は、行きに千ヶ滝中区の別荘地から林道を通ることもできる。

アドバイス ほかのハイキングコースと同様、5月下旬ごろの新緑から10月上旬ごろの紅葉までが適期。スタートは忍ヶ丘バス停のほうが少し近いが便が少ない。

⑤中軽井沢から千ヶ滝コースなどと組み合わせるのもよい。



▲ 落差20m、軽井沢最大の滝である千ヶ滝 ※最終地点については、令和元年東日本台風の影響により進入できなくなっておりますが、

11 三笠から小瀬、星野

長い登りがなく雑木林や溪流のたたずまいが好ましい自然歩道と林道を歩く



前半は信濃路自然歩道でコナラ、ミズナラなど落葉樹林のたたずまいがよく、後半の小瀬林道は湯川に沿った道がさわやか。それほど長く急な登り下りがなく、バス道路なども近いので、ビギナーも特に不安なく歩けるだろう。

三笠バス停①から旧三笠ホテル前を過ぎると、ほどなく自然歩道入口②である。信濃路自然歩道にはいると、すぐ急な丸太階段になるが、ひと登りで傾斜がゆるむ。その後も丸太階段となだらかな道を交互に登っていくと、山腹を横切るように進む平坦な道となる。

小さな沢を2回渡ると林道に出るが、なお平坦な道が続く。全体に落葉樹が多く、ところどころ樹間に展望が得られる。

キャンプ場の脇に入ると山道の下りとなって小瀬温泉③に着く。小瀬温泉から迷うところのない林道をたんとんと下る。野島の森入口④を過ぎ、美しいカラマツ林を抜けて星野温泉トンボの湯バス停⑤へ。

アドバイス やや長いコースだが、中間地点の小瀬温泉でバスを利用できるので、前半、後半に分けて歩いてよいし、③新軽井沢から三笠コース、④軽井沢野島の森コース、④峰の茶屋から白糸の滝コースなどと組み合わせることもできる。季節は新緑の5月下旬ごろから紅葉の10月上旬~中旬ごろまでがよい。

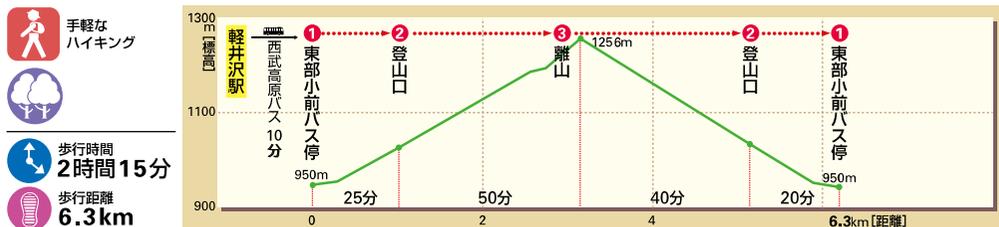


▲ 三笠側の信濃路自然歩道入口付近



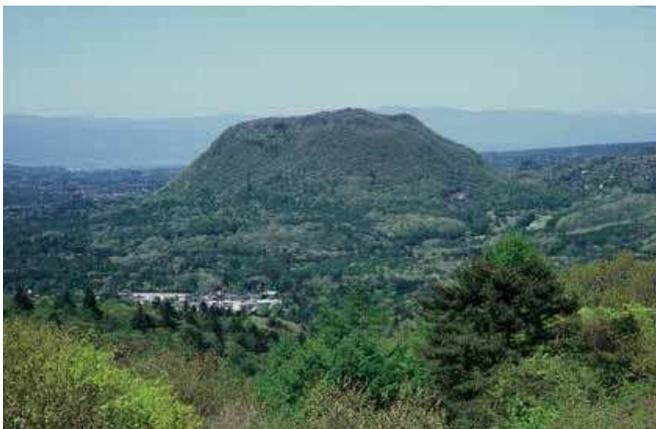
12 新軽井沢から離山

お椀を伏せたような山容で軽井沢のランドマーク。ビギナーも不安なく登れる



軽井沢駅の北西に盛りあがる離山は中腹までは別荘地の道。登山口からも大半がゆるやかな林道で、山慣れない人にも安心して登れる。全体に雑木林で覆われ、自然が豊富で山頂付近には展望地もあって、軽井沢の山登り入門にうってつけの山である。

東部小前バス停①の北側に建つ「離山登山道東口」の標識を目印に北へ向かう車道に入ると、5分ほどで大きく左へ、次いで右へカーブし、道なりに登っていくと、登山者の記帳用ノートが置かれた登山口



▲ 離山全景



②に着く。しばらくは林道だが、すぐにゲートがあって車は通れないのでのんびり歩ける。

ヘアピンカーブを繰り返す。大きな案内板が建つ歩道分岐を過ぎると平坦になり、歩道入口に着く。ひと登りで離山③山頂に着けば、浅間山などがよく見え、展望の案内盤も置かれている。帰りは展望のよい岩山から休憩舎、記念碑がある東展望台を経て下ろう。東展望台は妙義山などの眺めがよい。行きに通った歩道分岐に出たら、林道を下って東部小前バス停①へもどる。

アドバイス 山頂付近は遊歩道が入り組んでいるので、地図や案内板を確認して歩こう。軽井沢駅から東部小前バス停まで歩いて30分ほど。◎旧中山道踏破コース参照。

13 旧碓氷峠遊覧歩道

日本の東西を結ぶ幹線道路だった中山道の峠へ。頂上には大展望と茶店が待つ



信州(長野県)と上州(群馬県)の国境である旧碓氷峠は五街道のひとつ中山道の要衝で街道制定以前から多くの旅人が越えたと推定される。その歴史を物語る史跡や茶店が今も残るとともに、サンセットポイントであり、展望台から見る夕景の美しさも魅力。峠の上州(横川)側は距離、標高差ともにある難関だが、標高が高い軽井沢側からは遊覧歩道が整備されて手軽に登れる。

旧軽井沢バス停①から銀座通りを進む。家並みのはずれに建つ旅館、旅人が別れを惜しんだという二手橋に旧軽井沢が中山道の宿場町だった歴史が残る。遊覧歩道入口②から歩道に入り、沢に沿ってゆるやかに登る。春はコブシ、新緑やヤマザクラ、秋は紅葉が美しい道である。吊り橋を渡ると山肌を縫うようにして高度を上げ、三度山林道を歩道橋③で渡ると、尾根に沿ってゆるやかに登るようになり。車道に出たら右へひと登りで見晴台④である。雄大な浅間山や妙義山の展望を楽しんだら、熊野皇大神社⑤に詣でて往路を引き返す。余裕があれば峠付近の石碑など見学したい。

アドバイス 適期は5~11月で冬期は積雪や凍結箇所がある。往復しても手ごろだが、軽井沢観光会館前バス停~見晴台間の軽井沢交通バス(季節運行)を利用して片道だけ歩くこともできる。



▲ 新緑、紅葉が美しい遊覧歩道



▲ 県境に建つ熊野皇大神社



14 峰の茶屋から白糸の滝・竜返し

みずみずしい雑木やカラマツの林を下って軽井沢の二名瀑をたずねる



軽井沢を通る信濃路自然歩道の核心部で、全体に下りなので楽に歩いてビューポイントにも恵まれている。コースが路線バスが通る白糸ハイランドウェイと並行しているのも心強い。

峰の茶屋バス停①がある交差点の北側に信濃路自然歩道の案内板や標識、ベンチがあり、ここから信濃路自然歩道に入る。初めはカラマツ林、さらにはミズナラやシラカバなども見られる落葉樹林のなだらかな斜面を下る道は、心落ち着く森林浴を満喫できる。新緑のころから夏にかけては山野草の花も豊富だ。

狭くなった尾根上をたどると、左下に白糸の滝が見下ろされ、急な丸太階段を下ると、白糸の滝②前の広場に到着。半円を描く岩壁から湧き出した水が名前のとおり無数の白糸のように流れ落ちる様が美しく、人気の観光スポットにもなっている。

現在、白糸の滝⇄竜返し(バス停)が通行止めです。
※復旧時期未定

詳細はコチラ

アドバイス 適期は5月後半の新緑から10月の紅葉の時期。①三笠から小瀬、星野コースなどと組み合わせると中軽井沢などへも出られる。



▲観光にも人気の白糸の滝。紅葉も美しい



【草軽交通バス ☎0267-42-2441 /

※白糸ハイランドウェイを横断する際は十分気をつけてください ④は避難所

15 峰の茶屋から小浅間山

天候に恵まれれば手軽に登れて軽井沢指折りの山岳パノラマを満喫できる



名前のとおり、浅間山によく似てごんまりした山容を見せる山である。峰の茶屋から短い行程で登ることができ、山頂に立てば大パノラマが広がる。

峰の茶屋バス停①の西側、東大火山観測所に向かって左手が登山口である。すぐゲートがあり、登山の注意板などがある。右前方に小浅間山を見て林道状の平坦な道を進む。雑木の疎林からカラマツ林を経て、道なりにゆるやかに登っていく。右へ大きくカーブして、急斜面をひと登りすると浅間山分岐②に着く。ここからは草まばらな砂礫の斜面を登るようになる。踏み跡が錯綜しているところもあるが、上へ上へと登りつめれば小浅間山③山頂に着く。目の前にそびえる浅間山や裾野の広がりが見える。下りは、隣の小ピークを経由して、来た道に合流したら峰の茶屋バス停①へもどる。

アドバイス 好天ならやすく登れるが、浅間山分岐から上は吹きさらしの斜面で霧が出ると道を見失いがちなので無理な行動は慎もう。標高が高いので秋は雪が早く、春は遅くまで雪に遭うこともある。浅間山の登山規制区域内にあり、浅間山の活動状況によっては入山できないので軽井沢消防署内「気象庁浅間山火山防災連絡事務所」で確認してください。(P31 参照)

⑭峰の茶屋から白糸の滝コースを続けて歩くのもおすすめ。



▲小浅間山山頂に立てば雄大な浅間山が目の前に迫る



【気象庁浅間山火山防災連絡事務所 ☎0267-45-2167(受付時間:平日8時30分から17時15分) / 草軽交通(バス ☎0267-42-2041 / 西武高原バス ☎0267-45-5045) ④は避難所

16 旧碓氷峠から鼻曲山

旧碓氷峠から国境の尾根を北上し、浅間山などの大展望が待つ山頂をめざして



鼻曲山は山頂のパノラマ。明るい落葉樹林の新緑や紅葉などの魅力があり、古くから登山者に人気が高い。変わった名前は、東側が急に切れ落ちた山容を遠望すると鼻が曲がったように見えるためという。

旧碓氷峠①から車道を進み、思婦石の手前左へ入り、山道を登る。はじめはやや急だが、傾斜が落ちると一ノ字山に着く。はっきりした山頂ではなく、標識がなければ気づかずに過ぎてしまうような地形である。1419mのピーク②を過ぎていったん下り、急登をこなすと留夫山③に着く。山頂は狭く、展望には恵まれない。

鼻曲山の登りにかかると東側が断崖となり、ところどころで展望が得られるようになる。小さなピークをいくつも登り下りする道は意外に長い。鼻曲山④の山頂は登り着く大天狗と、次の小天狗に分かれており、小天狗のほうが眺めがすばらしい。とりわけ正面に立ちほだかる浅間山が圧巻だ。

下山は南西へ向かう。初めは急だが、徐々に傾斜がゆるみ、カラマツ林が美しい林道を下っていけば長日向バス停⑤に着く。

アドバイス 新緑の5月下旬ごろから11月上旬ごろが登山適期。紅葉は10月上旬～中旬。行程が長いので早めに旧碓氷峠をスタートしたい。旧碓氷峠まではバス(季節運行)⑬(旧碓氷峠遊覧歩道コース参照)も運行されている。



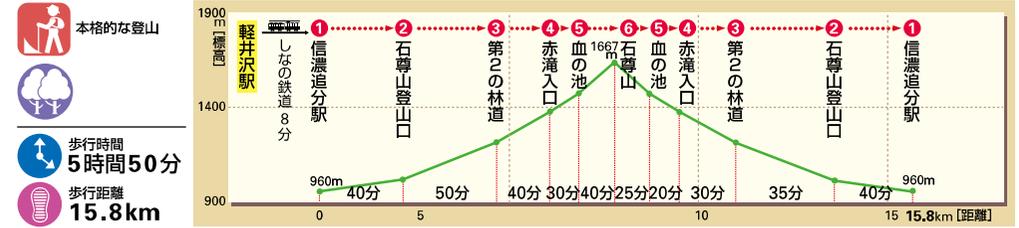
▲ 小浅間山から眺めた鼻曲山(左)。右のなだらかな山が一ノ字山、中央が留夫山



▲ 旧碓氷峠の思婦石跡が登山道入口

17 信濃追分から石尊山

山頂は北アルプスを望み、座禅窟や弥陀ヶ城岩に信仰登山の名残をとどめる



浅間山の中腹に頭をもたげ、あまり目立たない山だが、山頂の展望はすばらしく、山岳信仰の遺構も興味深い。ただし、行程が長く、標高差も大きいので山慣れた人向きの登山コースである。

信濃追分駅①から左へ、⑥信濃追分散策コースと同じ道で国道18号をくぐって旧中山道のT字路を左へ。高札場の角で⑥のコースと別れて右へ登り、別荘地上の道を横切ったところが石尊山登山口②である。車用のゲートを通り抜けると、石尊山に向かってほぼまっすぐに登っていく。樹林を切り開いた道は展望がきかないが、横切る林道が目印となる。

第2の林道③を横切り20～30分程登って、三度、林道を横切ると赤滝入口④に着き、樹林が開ける。血の池⑤から砂礫の斜面や疎林を抜けて石尊山⑥山頂に立てば北側に浅間山が立ちほだかり、東の鼻曲山から南の奥秩父、八ヶ岳、西の北アルプスなど大パノラマが開ける。展望を楽しんだら、来た道をもどる。

アドバイス 例年5月初めまで残雪があり、11月には雪に遭うこともあり、一般的な登山シーズンは5月下旬～11月上旬ごろ。浅間山の登山規制区域内にあり、浅間山の活動状況によっては入山できないので軽井沢消防署内「気象庁浅間山火山防災連絡事務所」で確認して火だしさい。(P31参照)



▲ 石尊山山頂に立てば間近に浅間山が迫り八ヶ岳や北アルプスもよく見える



▲ 鉄分を含み赤茶色に見える赤滝



▲ アカマツや雑木の林を切り開いた道



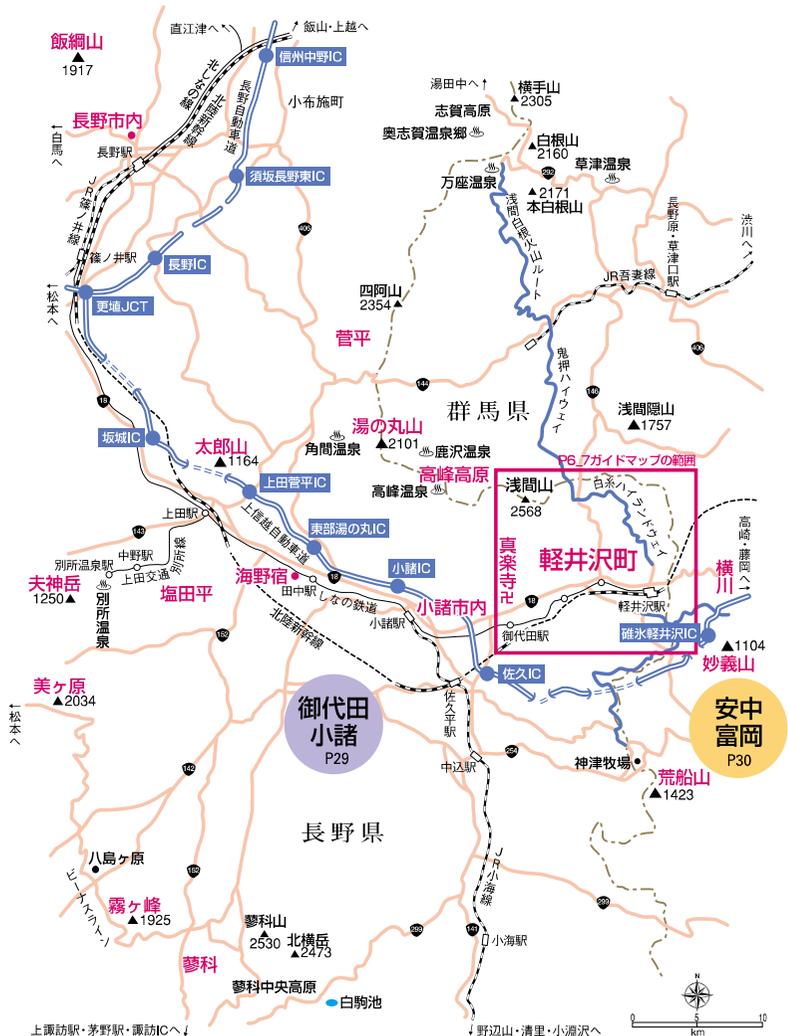
▲ 浅間山火山防災連絡事務所 ☎0267-45-2167 (受付時間: 平日8時30分から17時15分 / しなの鉄道 ☎0267-42-6257 HPIについてはP29参照) ☒は避難所

軽井沢周辺散策ガイド

軽井沢から信州各地や上州の旅も楽しめます

長野県の東端にあり、群馬県と境を接する軽井沢町の周辺には、風光明媚な山岳や歴史ある街が豊富。

ウォーキングやハイキング、観光旅行の絶好のフィールドに恵まれています。軽井沢に滞在して足をのぼすのもよいですし、いくつかのポイントを組み合わせて旅行やドライブを楽しむのもおすすめです。



御代田



御代田町HP

軽井沢駅から

御代田駅まで、しなの鉄道で15分。



▲ 夏の真楽寺

御代田町

御代田町は、浅間南麓に位置し、農業と製造業が盛んな町です。かつては、追分宿で分岐した中山道と北国街道が東西に走り、物資の流通ばかりでなく、文化を伝播してきました。参勤交代の大名は「追分宿」に宿をとり、御代田町の小田井にある「小田井宿」には、姫君など女性が休泊したことから「姫の宿」とも呼ばれていました。

【真楽寺】

用明2年（587年）に、浅間山の噴火を鎮まらう祈願のため、つくられたと言われています。境内には、三重塔をはじめ樹齢千余年の神代杉や芭蕉句碑などがあり、荘厳な雰囲気があります。隣接する浅間しゃくなげ公園では、季節の花を楽しむことができます。

[問い合わせ先]
御代田町産業経済課 ☎ 0267-32-3113

【交通機関HP】



西武観光バス



千曲バス



草軽交通



しなの鉄道

小諸



こもろ観光局HP

軽井沢駅から

小諸駅まで、しなの鉄道で25分。



▲ 新緑の三の門

小諸市

江戸時代の宿場町の名残をとどめる町並みと豊かな自然、美しい農村風景が広がる詩情あふれる高原の城下町です。浅間山の南麓に広がり、晴天率が高く、日照時間が長いことから近年ワイナリーや地域食材を使ったレストランが続々とオープン。まち歩きと合わせてぜひお立ち寄りください。

【小諸城址懐古園】

日本さくらの名所100選、日本100名城にも選定されている小諸城址懐古園。国・重要文化財に指定されている「大手門」、「三の門」を抜けて園内に入ると四季折々の美しい情景の中に小諸城の面影を見ることができます。小諸市動物園が令和4年5月リニューアルオープンし、大人から子どもまで楽しめます。

[問い合わせ先]
小諸市観光案内所 ☎ 0267-22-0568

安中



安中市観光機構HP

軽井沢駅から

安中市まで車で30分。



▲ めがね橋の紅葉

安中市

安中市は、中山道「碓氷関所」を要する古くからの交通の要衝として栄えた町です。レンガ造りの碓氷峠鉄道遺産群を歩く「アプトの道」は、アプト式鉄道時代の廃線敷等を利用して、横川駅～旧熊ノ平駅の間の約6kmが遊歩道として整備されており、ハイキングの名所として知られています。

また、中山道が通る安中市は、人々の往来により歴史や文化が集積され、同志社英学校を創設した新島襄を輩出するなど、「峠の文教都市」としての性格を残す文化史跡が市内に数多く残っています。

【碓氷第三橋梁（めがね橋）】

碓氷第三橋梁 通称「めがね橋」は明治25年12月に完成。碓氷峠を代表する建造物で煉瓦造りの4連アーチ橋。現存する煉瓦造りのアーチ橋の中では国内最大規模です。

【問い合わせ先】
（一社）安中市観光機構 ☎ 027-329-6203

富岡



富岡市観光HP「しるくるとみおか」

軽井沢駅から

富岡市まで車で1時間。



▲ 富岡製糸場（東置繭所）

富岡市

富岡市は、群馬県南西部に位置し、碓氷川と高田川の豊かな流れにはぐくまれ、古くから絹の街として栄えてきました。市の西域には、日本三奇勝の1つに数えられる妙義山がそびえ、今年で世界遺産登録10周年を迎える「富岡製糸場」のある美しい自然と長い歴史を誇る街です。富岡製糸場は、日本近代産業のシンボルであり、平成26年にユネスコ世界遺産に登録されました。

その他、野生動物が広大な敷地で暮らす群馬サファリパーク、恐竜の実物大模型を展示している群馬県立自然史博物館など、ご家族で楽しめる施設が盛りだくさんです。

【富岡製糸場】

明治5年に日本で最初に建てられた官営模範器械製糸工場です。生糸の生産・輸出により日本の近代化を担いました。西洋の技術を導入して造られた木骨煉瓦造の建物は、ほぼ当時のままの姿で保存されています。

【問い合わせ先】
（一社）富岡市観光協会 ☎ 0274-62-6001

ハイキング登山の時の注意点

山道を歩くときは軽登山靴等を履き、雨具、食材や飲みものご用意を。特に高所では、春は遅くまで雪が残り、晩秋には雪やみぞれに遭うことがあります。不安を感じる時は問い合わせからお出かけください。

熊に注意

- 軽井沢町には、多くの野生動物が生息しており、不意の遭遇による被害を防ぐため、山に入る場合には、次のことに十分気をつけてください。
 - 音の出る物を持って、周囲に十分注意して行動してください
 - 登山する際は、ラジオや鈴など、音の出る物を持って入りましょう。また、携帯電話の電波確認や複数人で入山するなど、緊急時の連絡手段を確保してください。
 - 食べ残しやゴミなどを放置しないようにしてください
 - ゴミなどもクマを呼び寄せてしまいます。人の食べ物に餌付いたクマは人を怖がらなくなり、大変危険です。ゴミなどは、持ち帰るようにしてください。なお、野生動物に餌付け行為は絶対しないでください
 - クマに遭遇してしまったら落ちて、クマに背を向けずに、ゆっくりとその場から離れましょう
 - クマを驚かすので、大声を出したり、走って逃げるのはやめましょう。



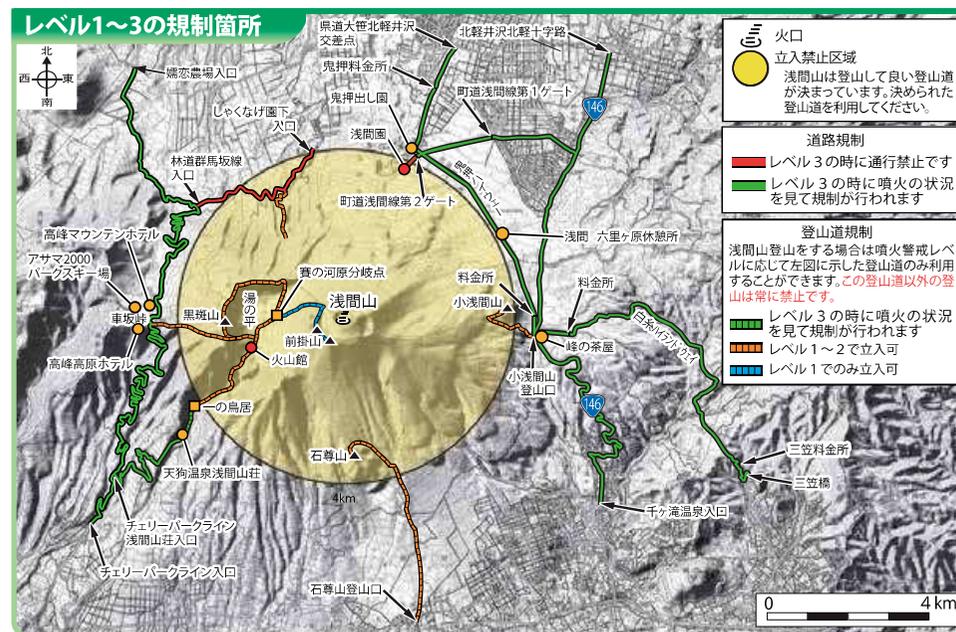
浅間山の噴火警戒レベル

噴火警戒レベル4～5では、居住地域まで被害が及ぶ恐れがあるため、高齢者等避難や避難をする必要があります。レベル4～5が発表された場合は、地元防災期間(市町村・警察・消防)の指示に従ってください。

噴火警戒レベル1～3では登山道の規制地点が変わります。

- 規制範囲内では、噴火に伴い直接人命に危険が及び火山現象が発生する恐れがあります。
- 一時的に道路を規制することがあります。

【問い合わせ先】 気象庁浅間山火山防災連絡事務所 ☎0267-45-2167



軽井沢イベントカレンダー (日程・内容は変更になる) 事があります

軽井沢町の木・花・獣・鳥

4月	下旬 ～6月上旬	[軽井沢若葉まつり] ◆軽井沢ハーフマラソン ◆緑化木無償配布・実費即売会 ◆写真でつながる2023軽井沢フォトコンテスト(2月初旬まで) ◆テニス大会 ◆芽吹きの中軽井沢を歩こう ほか
5月		[発地市庭グランフェスタ「春」] 5月連休
6月		
7月	下旬	[しなの追分馬子唄道中]
8月	◆軽井沢ショー祭 ◆各地でお祭り・花火大会	[発地市庭グランフェスタ「夏」] 8月
9月	下旬 ～11月上旬	[さわやか軽井沢キャンペーン] ◆期間中特典がいっぱい
10月	下旬 ～11月上旬	[軽井沢紅葉まつり] ◆ホリデーウォーク in 軽井沢 ◆アウトドアどんぐり体験 ◆テニス大会 ◆観光ガイドと歩こう ほか
11月		[発地市庭グランフェスタ「秋」] 11月
12月	下旬 ～2月下旬	[軽井沢ウインターフェスティバル] ◆町内イルミネーション ◆軽井沢少年アイスホッケー大会 ◆軽井沢スケート大会 ほか
1月		[発地市庭グランフェスタ「冬」] 1月
2月		
3月		



町営駐車場情報

駐車場名 (住所)	駐車可能台数(掲載ページ)
★中軽井沢駅前駐車場 (軽井沢町大字長倉 3049-8)	73台/普通車のみ (12p、13p、16p)
★信濃追分駅前駐車場 (軽井沢町大字追分 1074-36)	64台/普通車のみ (14p、16p)
★軽井沢駅北口西側駐車場 (軽井沢町大字軽井沢 1178-1126)	220台/普通車のみ (9p、11p)
★新軽井沢駐車場 (軽井沢町軽井沢東 42-2)	普通226台、大型12台 (9p)
★矢ヶ崎公園駐車場 (軽井沢町軽井沢東 28-3)	70台/普通車のみ (9p、11p)
★追分宿駐車場 (軽井沢町大字追分 873)	普通42台大型3台 (14p、25p)
★千ヶ滝無料駐車場 (軽井沢町大字長倉 (千ヶ滝))	普通10台、大型3台 (18p)



その他町内駐車場の詳細はこちら

問い合わせ先

軽井沢町観光経済課

〒389-0192

長野県北佐久郡軽井沢町大字長倉 2381-1

tel. 0267-45-8579



軽井沢観光協会

〒389-0102

長野県北佐久郡軽井沢町大字軽井沢 470-3

軽井沢町観光振興センター内

tel. 0267-41-3850



【観光に関するお問い合わせは下記案内所へ】

軽井沢駅内観光案内所

tel. 0267-42-2491

軽井沢観光会館

tel. 0267-42-5538

中軽井沢駅内観光案内所

tel. 0267-45-6050



★karuizawa★
(平成25年8月1日制定)